

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0022		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	新高等保健体育,ステップアップ高校スポーツ 大修館書店					
担当教員	江田 茂行,桐生 拓,市川 智之					
到達目標						
〔科目コード〕 M : 10230、 E e : 20230、 E c : 30230、 M b : 40230、 C i : 50230, 英語名 : Health、Physical Education) 授業計画の週は回と読み替えること。 この科目は長岡高専の学習・教育目標の(G)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育目標との関連を科目の到達目標、評価の重み。学習・教育到達目標との関連の順で次に示す。 ①技能：チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、主体的・積極的に活動に取り組むことができる。 30% (g2) ②態度：互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に留意してトレーニングや競技ができるようにする。 20% (g1),(g2) ③学び方：自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの方法や競技の方法を工夫することができるようにする。 20% (g1),(g2) ④保健：生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培い、各種運動を通じて実践的な理解を深められるようにする。 30% (g1)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、主体的・積極的に活動に取り組むことができる。	チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、主体的・積極的に活動に取り組むことが概ねできる。	チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、主体的・積極的に活動に取り組む様子がみられる。	左記に達していない		
評価項目2	互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に高度に留意してトレーニングや競技ができる。	互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に留意してトレーニングや競技が理解できる。	互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に留意してトレーニングや競技が概ね理解できる。	左記に達していない		
評価項目3	自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの仕方や競技の仕方を高度に工夫できる。	自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの仕方や競技の仕方を工夫することが理解できる。	自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの仕方や競技の仕方を工夫することが概ね理解できる。	左記に達していない		
評価項目4	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培い、各種運動を通じて実践的な理解を深めることができる。	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培い、各種運動を通じて実践的な理解を深めることが理解できる。	生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培い、各種運動を通じて実践的な理解を深めることが概ね理解できる。	左記に達していない		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動理論や運動技術を基本に生涯健康であるために、総合的に運動と関わるか、運動習慣を身に付けるためにはどうするかを自ら考え、自ら学び、練り上げ、生活にいかせる能力を身に付ける。保健に関しては、健康的な生活習慣を身に付けたり、健康的な自然・社会環境づくりに参加したりする知識と能力を高める。○関連する教科：保健体育（前年度履修）、保健体育（次年度履修）					
授業の進め方・方法	授業毎の環境に応じ授業を受講もしくは運動ができる場所で実施する。ただし、社会状況の変化に応じて教室の他、体育館・グラウンド他体育施設にて講義を行う可能性がある。連絡方法等は授業担当者から説明がある。遠隔で実施する期間中は各自で健康的な生活を心がけ、提出物の締め切り等を厳守すること。通年の保健内容：2単元【生涯を通じる健康】 後期の保健内容：3単元【社会生活と健康】					
注意点	健康・安全に留意して授業に参加できる能力も重要な資質であると考え、以下の注意点を守ること。 天候、気温や湿度などの気象条件に応じた服装や会場に応じた適切なシューズを用意し着用すること。 装飾品(ピアス等)を着用しての参加は原則認めない。授業前に必ず取り外すこと。 種目の特性によって男女別に実施することがある。 以上のことが健康・安全にかかわる態度の育成に寄与することを理解する事。 本科目は本来、面接授業として実施を予定していたものであるが、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態において、必要に応じ遠隔授業として実施するものである。					
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	スポーツテスト（屋外種目）	スポーツテストの屋内種目を行う		
		2週	スポーツテスト（屋内種目）	スポーツテストの屋内種目を行う		
		3週	サッカー①：ボール操作（ドリブル）	ボール操作のドリブルを理解・実践する		
		4週	サッカー②：ボール操作（パス）	ボール操作のパスを理解・実践する		
		5週	サッカー③：ボール操作（シュート）	ボール操作のシュートを理解・実践する		
		6週	サッカー④：ゲーム	チームの課題や自己の能力に応じてサッカーの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする		

後期		7週	サッカー⑤：ゲーム	チームの課題や自己の能力に応じてサッカーの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
		8週	サッカー⑥：ゲーム（実技試験）	チームの課題や自己の能力に応じてサッカーの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
	2ndQ	9週	バスケットボール①：パス＆ラン、ドリブル、シュート	バスケットボールにおけるの連携プレイ（パス＆ラン）を理解・実践する
		10週	バスケットボール②：パス＆ラン、ドリブル、シュート	バスケットボールにおけるの連携プレイ（パス＆ラン）を理解・実践する
		11週	バスケットボール③：パス＆ラン、ドリブル、シュート	バスケットボールにおけるの連携プレイ（パス＆ラン）を理解・実践する
		12週	バスケットボール④：ゲーム	チームの課題や自己の能力に応じてバスケットボールの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
		13週	バスケットボール⑤：ゲーム	チームの課題や自己の能力に応じてバスケットボールの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
		14週	バスケットボール⑥：ゲーム（実技試験）	チームの課題や自己の能力に応じてバスケットボールの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
		15週	バスケットボール⑦：ゲーム	チームの課題や自己の能力に応じてバスケットボールの技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする
		16週	保健・体育 筆記試験	前期末試験期間中に実施【試験時間：50分】
	3rdQ	1週	学校体操の確認	学校体操の内容を理解・実践する
		2週	健康づくりのための運動 4エクササイズ（持久走）	30分を目標に、息がはずむ程度のスピードで、体調に合わせてマイペースに実践する
		3週	健康づくりのための運動 4エクササイズ（各種運動）	30分を目標に、息がはずむ程度のスピードで、体調に合わせてマイペースに実践する
		4週	レジスタンストレーニング 50%強度	自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって、レジスタンストレーニングを実践する
		5週	レジスタンストレーニング 60%強度	自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって、レジスタンストレーニングを実践する
		6週	レジスタンストレーニング 70%強度	自己の体に関心をもち、自己の体力や生活に応じた課題をもって、レジスタンストレーニングを実践する
		7週	クラスマッチの練習（各種球技）	学校行事（体育的行事）における自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにする
		8週	柔道Ⅱ①：受身、既習技の復習	柔道の基礎的な動作を復習する
	4thQ	9週	柔道Ⅱ② 受身、既習技の復習 小内刈り・袈裟固め	柔道の発展的な動作を習得する①
		10週	柔道Ⅱ③ 受身、既習技の復習 大内刈り・横四方固め	柔道の発展的な動作を習得する②
		11週	柔道Ⅱ④ 応用（セットプレイ）背負い投げ・崩上四方固・縦四方固	柔道の発展的な動作を習得する③
		12週	柔道Ⅱ⑤ 簡易な試合 リーグ戦①	柔道の発展的な動作を試合を通じて実践する①
		13週	柔道Ⅱ⑥ 簡易な試合 リーグ戦②	柔道の発展的な動作を試合を通じて実践する②
		14週	柔道Ⅱ⑦ 簡易な試合 リーグ戦③	柔道の発展的な動作を試合を通じて実践する③
		15週	実技試験	既習の技術の到達度を確認する。
		16週	保健・体育 筆記試験	学年末試験期間中に実施【試験時間：50分】

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	

				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	3	

評価割合

	試験	実技	提出物	その他	合計
総合評価割合	40	40	10	10	100
基礎的能力	20	20	5	10	55
専門的能力	20	20	5	0	45
分野横断的能力	0	0	0	0	0